

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・0824 NO24

校長 伊波喜一

何のため 誰のためにと 自らに 問うてきた道 人の歩みか

「AI（人工知能）があらゆる分野に入り込み、やがて人間社会を席巻する」のではないか。そんな懸念を抱く方もあることでしょう。今、車の自動運転も含め、AIはあらゆる分野に入り込んでいます。AIは過去のデータを読み解く力においては、驚異的な学習能力を持っています。将棋のボナンザはその好例です。データを基にした局面においては、圧倒的な強さを見せています。ある限定した分野でのAIの力は抜きんでています。しかし、未来を予想するだけでなく、過去のデータを基に人の嗜好（このみ）や思考（考え）に付加価値を与えるなどの未来創造力は、人間には及びません。何故なら、それは過去から現在を推し測る作業ではなく、現在から未来を創り出す行為だからです。例えば、ロボット・AIなどの農作業用ロボットは、人に目的を与えられて初めて、除草や耕耘や収穫を始めます。便利さの追求には限度がありません。大切なことは、何のために、誰のためにAIを活かしていくかです。このことを社会全体で、今一度考えてみる必要があるのではないのでしょうか。